

- ・福井幸子、細川満子（青森県立保健大学健康科学部看護学科）
- ・吹田夕起子（日本赤十字秋田看護大学）・矢野久子（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
- ・前田ひとみ（熊本大学大学院生命科学研究）・共同研究者：株式会社西山製作所

【研究の背景】

血液で汚染された針による針刺しは、B型肝炎やC型肝炎、HIV等のウイルス感染症に感染する恐れがあります。医療施設に対して厚生労働省は、リキャップ禁止や注射針専用の廃棄容器の配置、安全器材の活用等を通達し、医療従事者の安全を図っていますが、在宅医療では、訪問看護に携わる看護師の安全をはかる対策は未整備のままです。我々が2010年に訪問看護師を対象とした全国調査では、520名中31名(6.0%)が針刺しを経験していました。針刺し場面の中で廃棄時が多かったため、看護師の安全を図るための廃棄容器の開発に着手しました。

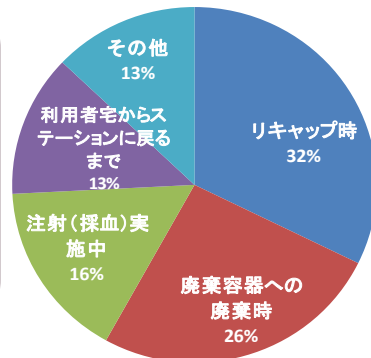


図 針刺しの場面(n=31)

【研究の目的・方法】

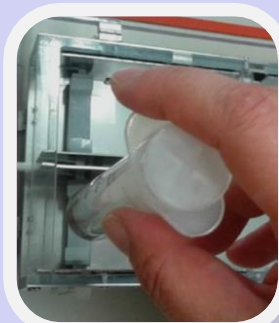
目的：針刺し予防に向けて携帯用医療廃棄容器【試作品2015】を完成させ、医療施設等で使用している従来の携帯用廃棄容器と比較して、使いやすさと安全性に関するデータ収集を行い、訪問看護や在宅医療に求められる携帯用廃棄容器の特徴を明らかにする。

方法：診療所や訪問看護に従事する看護師などに【試作品2015】使用のモニターを募集し、従来の携帯用廃棄容器の使用とを比較し、安全性、利便性について回答を得る。

*現在、試行錯誤しながら、【試作品2015】を開発中です。

【試作品2015】

【特徴】



特徴①②耐貫通性器材で針先を覆う



特徴③収納イメージ



特徴④廃棄時のイメージ

- ①密封容器への納入のみならず、針先を耐貫通性器材で覆うという、2重の安全構造とした。このことは翼状針廃棄時の跳ね返りによる針刺し対策ともなる。
- ②針山に縫い針を刺すように、抜針後、耐貫通性器材に垂直に刺す形にした。これにより咄嗟の事態でも、安全を確保してから対応できる。
- ③密封した状態でも容器の中味が見える安全性と、4か所に耐貫通性器材を設置できることで、複数の廃棄物を収納できる利便性を図った(20ml注射器最大2本、翼状針最大4個)。
- ④廃棄物を素手で触れず廃棄。

問合せ先：青森県立保健大学 健康科学部 看護学科 福井幸子
 TEL：017-765-2045 E-mail：s_fukui@auhw.ac.jp